

【4】 人工知能と医療（医師の仕事とは）

＊医療におけるAIの導入はこの数年の時事的な医療問題として、論文でも面接でも頻出の課題でした。この課題は、AIについての基本知識はもちろんですが、医師の臨床での医療行為について、具体的に考えたことがないとしっかりした考察はできません。「AIでは人間的な対応ができない」とか、「患者の不安をくみ取れない」などあいまいな主張で終始してしまうことになるでしょう。参考類題の鹿児島大、福井大、山口大17年度などの設問に見られるように、AIにまかせられない「医師の役割・責任」が課題とされています。ここで重要なのは、**医師の仕事とは具体的にどのようなものか**ということです。初診での診療を考えてみると以下ようになります。

問診表→診察（問診・触診・聴診・視診）→検査の必要の有無と検査項目の決定（血液、尿、心電図、超音波など）→診断→治療法の選択・決定→治療→予後の経過観察
この中でAIが活用できるところと、医師の介在が不可欠なところを考えてみるとというのが「具体的考察」です。将来自分が携わる仕事の中身くらいは知っている必要があります。

（巻末参考資料P. 180を参照）

問1 下線部①の記述について、人工知能が個人医療情報を駆使して医療に関わるようになると、どのような課題があるだろうか。また、あなたが挙げた課題に対して、どのような対策が必要か。それぞれ100字以内で述べなさい。

解答例1

診断・治療法選択は人間よりも効率よく、正確に結論を導くかもしれないが、誤る可能性もある。だがAIのアルゴリズムは人間には理解が難しい。これをチェックできないと医師は責任を持てない。

どのデータからどのような情報を抽出したのかを後追いできるようなシステムを必ず装備する。そして医師がAIの選択に違和感を感じた時にはその根拠を確かめ、医師の責任を明確にする。

解答例2

データバンクからの情報は匿名化されているが、健康診断やスマホの健康アプリなどからの場合は個人情報that当人の了承なく使われることになる。個人情報を本人同意なく使うことは問題だ。

この危険に対する対策としては、健康診断や健康アプリを使う場合は、データの匿名化による利用を許可するか本人の同意取得を原則とする。同意のない場合は集積データには含まれないようにする。

問2 臨床診断や治療方針に、人工知能が関わるようになった場合、医師はどのような役割や責任を果たすべきか。 600字以内で述べなさい。

解答例

すでに、何種類かのガンなどに AI による診断と利用法の候補選択が用いる試みが進んでいる。診断と治療は医師の仕事の主要部分である。これまでは正確な診断と治療法選択に医師の能力が問われてきた。ここを間違えれば医療過誤に直結し医師の責任が強く問われるからだ。しかし、AI の導入によって経験ある医師がそれ以上の正確さで、しかも短時間で過去の症例を根拠にした診断・治療が可能になっているようだ。

この医師の仕事の根幹を AI に任せるとすると、医師の役割と責任は軽くなりそうだ。しかし医師には診断・治療の前後に「患者を診る」という重要な役割がある。医師の仕事は患者への診察から始まる。診察ではじっくりと症状を聴き、患者の気持ちを受け止めることが必要だ。患者は病気の苦しみだけではなく、それによる生活上の苦しみを持つ。その事情も考慮しなければならない。これには、最初の診察時と、診断・治療法決定のインフォームド・コンセントでの対話が必須である。医療的観点と患者の要求をすり合わせ、最善の治療やケアを探るのは個々人の価値観が関わるので AI には任せられない。

また、診断・治療法を AI が導いたとしても、その根拠について医師がチェックできるようにしておかないと、責任を持った医療にはならない。そして、治療の予後の患者の様子や感じることを聞き取り適切なケアを行うことも医師の役割である。